

マイペースにこつこつと 一級建築士資格取得への道のり

— 一級建築士 —

1. はじめに

この度、一級建築士資格取得の体験記寄稿のお話をいただき、試験勉強の日々を思い返してみたところ、悩みながらも自分に合った無理のない計画を立てて勉強を進めることができたことが最後まで勉強を続けることができた理由だと気づきました。そこで本稿では、私の勉強の計画の立て方と内容をお話したいと思います。この体験記がこれから一級建築士を受験される方にとって少しでも参考になれば幸いです。

2. 受験動機

私は小さい頃からものを作ることが好きでした。そのうち、人が喜んでくれる大きなものを作る人になりたいと思うようになり、一番身近で自分の生活に密着している大きなものである「建物」に興味を持ったことで建築士を志すようになりました。その後大学に進学し、今の職場に就職したときに、一生建築に関わっていくために、ひとつ自分の強みとなる資格を持ちたいと思うようになりました。知識が豊富な職場の方々と同じ目標を持った先輩・同期に囲まれ、就職して1年ほど経ったときに、明確に「一級建築士一発合格」を目標にして、小さい頃からの夢を実現すべく勉強を始めました。

3. 試験勉強

試験勉強をする中で一貫して意識していたのは、勉強の計画は自分に合った無理のないものにすることです。私は日々の勉強の計画をきちりと立ててしまうと、計画が崩れたときにモチベーションが下がり長続きしない性格だとわかっていたので。ここからは、そんな私が実践していた勉強方法について、筆記試験と製図試験と分けてお話します。

まずは、筆記試験です。私は筆記・製図試験ともに資格学校でお世話になりました。週に1回授業があったのでその前日に予習、翌日に復習を行い、その他の日はそれぞれ重点を置くことを決めて、取ることでできた勉強時間に応じてできるところまで進める、といった計画を立てていました。具体的にお話すると、平日の勉強時間は基本的には帰宅後4時間程度、「構造力学5問、法規5問」という毎日の最低限のノルマだけ決めて、あとは得意な科目を中心に問題数を多くこなすことに重点を置きました。朝出勤前に法規、帰宅してすぐに構造力学を解くようにし、スマホに過去問を入れて隙間時間も有効に活用できるようにしました。休日の勉強時間は10時間程度、苦手な科目に時間をかけて、單元ごとにしっかり理解することに重点を置きました。また、これは平日も休日と同じですが、

夜遅くまでしても効率が下がる一方なので、勉強は23時までにしてリフレッシュの時間を取るようにしてました。このおかげだったのか、最後まで気が滅入ることなく最後まで勉強ができました。

次に、製図試験です。筆記試験のときと同様に週1回授業があり、平日4時間、休日10時間、23時までにしてました。内容としては、資格学校で配布される課題をこなすことに専念することにして、一課題エスキスをするを毎日の最低限のノルマとして、ひとつの課題を最低2回は解くようにしました。1回目は時間内に全ての条件を満たすことを目標にし、2回目は1回目では検討が不十分だった箇所やミスをしてしまった箇所を修正し自分なりのパターンを作ることを目標にしました。また、私は資格学校のクラスのなかで一番エスキスが遅かったため、図面を速くきれいに描く練習は誰よりもしたと思います。その結果、図面を描くスピードは格段に上がり、はじめは4～5時間かかっていたものが2.5～3時間程度で描くことができるようになりました。

4. 資格を取得して

資格取得後約半年経ちますが、私自身の能力が急成長したわけではないので、仕事では毎日分からない用語にぶつかり続けているのが現状です。しかし、試験勉強中に本気で悩み、試行錯誤しながら自分にとってベストの勉強方法や生活リズムを確立させる過程で、自分というひとりの人と改めて向き合うことができ、モチベーションを高く保ち続けるための方法がわかったり、時間の使い方が少し上手になったこと



国土交通省 中国地方整備局
営繕部 整備課
はらこん あやか
原紺 純花

(取得した資格：一級建築士)
(資格取得年度：平成30年度)

は、これから社会人として働いていくうえで必ず役に立つスキルを身につけることができたかなと思います。

5. おわりに

これから受験される方へのアドバイスですが、とにかく何よりも自分に合った無理のない計画を立てて、それを最後まで貫くようにしてください。勉強をしているとどうしても周りの人と比べてしまい、焦って苦しくなってしまうときもあると思います。そのようなときでも、「毎日仕事しながら勉強もするなんて、よく頑張っている！」と自分を褒めて、乗り切ってくださいね。私は、自分で決めた毎日の最低限のノルマをこなし続けられたことが大きな自信になりました。

最後に、この一級建築士資格取得を実現できたのは、職場の方々や両親、友人らの支えがあったからこそです。この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。